

研究者は いかに野生動物保護に かかわるべきか

【日時】 2015年1月10日(土)
13:30 ~ 18:00

【会場】 東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
3階大会議室(303)



【プログラム】

第1部 野生動物保護に携わるNPOの立場から

片岡 義廣 (NPO法人エトピリカ基金代表理事)

「エトピリカプロジェクト：海鳥を知り守ろう」

千嶋 淳 (NPO法人日本野鳥の会十勝支部副支部長／漂着アザラシの会副代表)

「トッカリとの共存を目指して」

興膳 健太 (NPO法人メタセコイアの森の仲間たち代表理事／猪鹿庁長官)

「獣害を地域の資源に」

第2部 野生動物保護に携わる研究者の立場から

坪川 桂子 (京都大学大学院理学研究科博士課程／ポポフ日本支部)

「ゴリラと住民のために研究者が出来ること」

山根 裕美

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程／NPO法人ワイルドライフ・プロミシング)

「都市ナイロビに棲むヒョウと人々の関わり」

目黒 紀夫 (AA研研究機関研究員／NPO法人アフリック・アフリカ)

「コミュニティを研究することと支援することとのあいだの隔たり」

コメンテーター



山極 寿一 (京都大学総長)

湯川秀樹博士にあこがれて京大理学部に入學後、霊長類学に出会う。30年以上にわたってアフリカの熱帯林でゴリラの行動を観察。野生ゴリラのような「泰然自若」がモットーで、ゴリラの社会から人類の起源、人間社会をみるユニークな視点をもつ。ゴリラの生態研究で身に付けたフットワークの軽さを理想のキャンパスづくりに生かすため奮闘中。絶滅の危機にある東ローランドゴリラの保護を続ける現地NGOポポフの日本支部代表。



岩井 雪乃

(早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター准教授)

大学進学時からアフリカと動物保護に関心があり、卒業後、青年海外協力隊(理数科教師)としてタンザニアに派遣。動物との「共生」を「強制」されるのではなく、人びとが主体的に選択できる社会をめざし、セレンゲティ国立公園の周辺の村で調査研究を続けている。「豊かな」社会の多様なあり方を、日本およびアフリカで考えるNPO法人アフリック・アフリカ代表理事。